

学校給食センター建替え計画

止めよう！大規模化

署名9906筆！

しかし、不採択…

主張しましたが、不採択になりました。

(議員賛否は市民ネット速報参照)

まず学校給食の

あり方の検討を！

つくば市では総額56億円かけて1万2000食の学校給食センターを2ヶ所新築する「新学校給食センター施設整備計画」を作っています。

その計画について、市民有志で立ち上げた「安全な学校給食を考える会」は「大規模センターはリスクが高く、食育・地産地消推進・アレルギー対応が実現しにくい。また、市民の声が反映されておらず、議論が不十分である。」と3月議会にこの計画の見直しを求める請願を提出しました。

つくば・市民ネットワークは「学校給食自体のあり方をまず検討し、その後に適した施設を検討するのがスジ。しかも巨額の経費をかけ30年は使用する施設だけに慎重な議論・検討が必要である。大規模への転換は見直すべき」と

主張しましたが、不採択になりました。

水戸市では「次代を担う人材を育むまちづくり」という市の総合計画にもとづき、「学校給食のあり方」について検討を行い「学校給食基本計画」を作り実施しています。

その中で、幼少期から食への関心・感謝の心を醸成し、望ましい食習慣を習得するために、きめ細やかに五感に働きかけ食育指導を行う。その観点から、小学校は自校式を選択、中学校は財政面も考慮しセンター方式で―という明確なビジョンが示されています。

少子高齢化や財政難など同様の課題に直面していながら、水戸でできた「あり方検討」。つくば市でできないはずはありません。また、過大規模化のリスクについて何も触れられず、具体的には殆ど提示されていません。これでは、大規模センターの建設ありきと言わざるを得ず、順序が逆です。パブリックコメントで寄せられた意見も審議会での検討はせず「役所内での調整にとどめる」とのことです。巨額な公共施設の建設が役所内だけで決められていくこの状況は容認できません。

どう建て替えるかで

未来が変わる

署名活動中、多くの市民から「計画を全く知らなかった！」「何故こんな大きなセンターに?」「食育・地産地消の充実と逆行」と疑問の声や意見がたくさん届きました。

また、①一旦事故が発生すると被害が大きい、②配送に時間がかかるため、調理後の時間が長くなり、栄養価や美味しさが損なわれる。食べ残

しが更に増える、③現在の規模でもアレルギー対応や地産地消は不十分。更に規模拡大では到底実施は困難、④配送距離が長くなり燃料費が増額しCO<sub>2</sub>も増える―など大規模センター計画には多々問題があります。どう建て替えるかで子供の未来が大きく変わります。

今後ともあきらめず、多くの市民へ知らせ、意見を集め、よりよい学校給食や食育を目指して活動していきます！

学校給食 上映会+つくばのこれから

**未来の食卓**

5月15日(土) 13:30~16:00

筑波学院大学 2F 大教室

前売り: 大人・大学生 ¥500(当日 ¥700) 高校生以下無料

学校給食を通して村中の望ましい食育に取り組んでいるフランスのある村の実話です。見て、感じて、考えて!

主催: 安全な学校給食を考える会  
お問い合わせ: 市民ネット事務所 (Tel. 859-0264)

## 一般質問項目

1. 地域公共交通総合連携計画
2. 学校給食
3. 次世代育成支援対策行動計画・後期計画
4. 児童福祉施設適正配置計画

# “地域の足”を住民自らが作り上げる仕組みを!

つくば市議会議員 瀬戸 裕美子 の議会報告  
せと ゆみこ



南北に細長く面積の広いつくば市はこれまで自家用車中心のまちづくりが当たり前のようになされてきました。

利用の少ないバスの路線は、ほとんど削られてしまい、自家用車を手放した高齢者や、運転免許を持たない生活者にとって生活圏はせばまるばかりです。

### 新計画では

### シャトルやデマンドバス

昨年からは、公共交通活性化協議会を組織して公共交通の再編を進めています。これまでの地域循環バスを「各地域からセンターへ直行するシャトル的なコミュニティバス」と「地域内での移動はデマンドバス」で…という新たな計画案が示されました。

デマンドバスとは、利用者の需要にあわせて予約制で運行する乗り合いタクシーのようなもので、平成23年度のスタートに向けて現在筑波地域で実証実験が行なわれています。

### 利用者参加で検討を!

このデマンドバスに限らず、公共交通を継続的に運営していくには、地域のニーズを把握し、運行プラン、コースの設定まで地域ごと利用者である市民が参加して計画することが大切だと考えます。

市民ネットでは、地域の特性にあった運行計画を住民自らが検討する場の設置や、公共交通活性化協議会にバス利用の当事者である市民が参加できるように委員の市民公募などを求めています。が、いまだ実現していません。

市が行なった調査やアンケートだけでは、まだまだ地域のニーズの把握が不十分です。お仕着せのバスコースでは、これまで同様利用は伸びず、赤字はかさむばかりです。

### ニーズを活かした

### 運行計画に

市民自らが意見を出し合えば、話し合っ

い続ける責任を意識することにもつながると思います。

例えば、通勤者や学生の多い地域ではその時間帯を手厚くする、高齢者の多い地域では昼間の通院、買い物に便利な時間帯を組み立てる、毎週決まった曜日に買い物コースを設定するなど地域の事情に合わせた計画を作ることも可能だと思

います。それには時間をかけて地域内のニーズを検討・調整し、合意をとることが必要です。

市の決定を待つばかりでなく、地域の特性をいかした『より使いやすく持続できる自分たちの公共交通』を目指して、自治会、シルバークラブ、PTAなどで議論を始めませんか。

## 次世代育成支援対策行動計画・後期計画

# 中高生は明日をになう市民です

これまで中高生に関する具体策がなかった「次世代育成支援対策行動計画」。今回の後期計画にもやはり中高生に関する部分が抜け落ちていることに気づき、質問しました。

「支援の必要性は認識している。市、地域、NPOなどとの連携で体験活動を促したり、またニーズ調査をしていき、心身ともに健やかな成長を支援していく」との答弁でした。

子育ては乳幼児期、学童期だけに目が向けられがちですが、支援が必要なのはそこだけではありません。親の手を離れ、社会にむけて様々な経験を積み、新たな成長のステップを踏み出そうという中高生の年代にも支援は必要です。自立にむけてもがくこともたちやさまよう青少年の心を受け止め、いつでも手をさしのべる用意をしておくことが、見守るおとなの役目でもあります。

その後決定した計画では“中高生の声を聴こうニーズ調査”などの新たな事業が追加されました。

今後の支援策の具体化に期待したいと思います。



# 多くの市民参加で 自治基本条例制定を

ながい えつこ  
つくば市議会議員 永井悦子 の議会報告  
環境経済常任委員会所属

## 一般質問項目

1. 自治基本条例制定
2. 環境政策
3. 公文書保管
4. 風車問題
5. 産業振興

### 全国で進む自治の動き

これまで以上に地方主権が注目されています。平成12年地方分権一括法成立後、国や県の指示のもとに行ってきた自治体運営を、地域に住む住民総意で行えるように変わってきています。

先進自治体では、市民の関心を高め要望を反映する情報公開条例や市民参加制度など実情に合った条例、制度を定めてきました。昨年成立した景観法は、市町村レベルから始まった条例が国の法律となった一例です。

「住民自身が自分たちの住む地域をどのようなまちにしたいかを考え、決めることができるようになった」のです。そこで全国で自治体運営の柱となるおおもとの条例「自治基本条例」をつくる動きが出てきました。

### つくば市で条例づくりが 始まります

つくば市も自治基本条例



の制定準備を進めています。市は、平成24年施行を目標に作る予定とのことです。

この条例は、市民自治を実現する為の条例ですから、制定作業は市民の手で行わなければ意味がありません。従来の進め方にとらわれず、しっかりと市民参加を実現することが大切です。

### 先進地を参考に!

近隣の流山市では、3年半をかけて自治基本条例が成立しています。条例作りは市民参加を重視し、公募委員による市民協議会が進めました。委員自身が自治会、PTA、市民グループ、行政職員、議員などに検討案を説明し、3400名、7000件の意見を集めて

## 風車事件を風化させるな!

平成18年4月に始まった風車裁判は、本年1月二審判決が下され、結果は一審判決よりも市の責任が大きくなり、過失割合をつくば市7割、早稲田大学3割とした。つくば市はこれを不服として上告。なぜつくば市は間違った事業の進め方をしたのか一裁判継続を理由に未だ市民への説明は無い。

事業開始から5年が経過し、市内小中学校には23本の錆びた鉄柱が立つ。子どもたちの未来を思うと、私たち大人が起こした愚行が如何に大きなものだったか思い知らされる。風車事件を忘れるな、繰り返すな。私たちは文字通り「風通しの良い市政」になるまで監視し続けねばならない。



### 市民が主役で 条例づくりを

つくば市は6町村が合併

し特色ある地域をつくっていきます。また新しく住み始めた人たちも増え、住民の要望も多種多様です。自治

基本条例は如何に市民が主役となって進められたかにその価値があります。各地域で住民自身がまちづくりについて話し合い、理解を深めていく中で方向性を見出す過程が重要です。市民ネットは、より多くの市民が参加できるように行政に働きかけると共に、自治基本条例に対する市民の関心を深めるため、フォーラムなどの独自企画を行います。ぜひ皆さんも条例づくりに積極的に参加しましょう。

## 傍聴席から

私は、ひとりの母親として、また教員として、健康と環境と教育に関わる食の問題について日頃より関心を持つものです。食品表示改正に関する請願の委員会審議を傍聴しました。請願者自らが、市民の立場からのびやかに、議員質問に明快に答える場面が印象的でした。また、学校給食については、多くの市民の願いと祈りを込めた1万筆に迫るほどの署名活動をよそに、強引に押し進められる大規模センター建設計画に対し、不安と戸惑いを感じておりました。本会議では理知的な賛成討論のあと、要点的をはずした反対討論があり、結局は不採択。市民の声を無視するのか？と怒りがこみ上げます。

全般に印象に残ったのは、ここぞという採決の場で席をはずして棄権する議員、野次や咳払いで発言者に威圧を与えるマナー違反の議員たちです。「事前通告がない」というだけで、ある議員の発言を求める挙手に対し無視される場面も。当事者でなくても悔しい思いをしました。どの議案についても、あらかじめ決められた文書を読みあげているような討論が多い中、真剣勝負の意見で、議場を白熱した雰囲気に変えていたのは、永井議員、瀬戸議員を含めたわずか少数でした。(二の宮：M. T.)

### つくば・市民ネットワークの主な活動報告

- 1/8～2/19 学校給食に関する請願署名活動
- 1/24 つくば市地域公共交通総合連携計画説明会参加
- 1/30 大豆畑トラストつくば「みそづくり」
- 2/ 8 議員と話そう！会
- 2/10 日立市学校給食共同調理場（1万食）視察
- 2/11 ハッ場ダム学習会「なぜ、ハッ場を止めるのか？」
- 2/14 第6回つくば・市民ネットワーク総会
- 2/25～3/18 3月市議会
- 3/6, 7 笑顔市（自転車コーナー実施）
- 3/16 つくば市クリーンセンター見学（古紙分別）
- 3/27 市民レポーター編集会議シンポジウム参加
- 4/ 3 街頭議会報告

※その他、学習会・委員会・審議会等へ多数参加・傍聴しています（詳細はHPをご覧ください）

### つくば・市民ネットワーク 会員募集中

多くの皆さんの声や参加が解決の原動力です。  
あなたの参加をお待ちしています。

Tel&Fax 029-859-0264

## 市民ネット 部会紹介② 公務員宿舎跡地部会

研究学園都市として大規模に整備されたつくばの公務員宿舎も、平成18年、国の出した不要財産売却方針に従い、23箇所35ha、東京ドーム7倍以上に相当する宿舎が廃止対象となりました。この様な状況を受け、当部会を立ち上げました。

「廃止跡地はどうなるの？」「廃止や廃止直前の宿舎管理はどうなっているの？」というメンバーの疑問を基に話し合いを重ねました。そして「①市民を



置いてきぼりにしないまちづくり、②再開発に活かす都市デザインの継承、③市民提案ができる跡地利用」を政策提案にまとめ市に提出しました。これに対してつくば市からは「①市民主体ですすめるまちづくり支援、②ペDESTリアンデッキなどの維持、③跡地は財務省所管の財産」との答えを得ました。

そこで、宿舎の持ち主である財務省に直接聞いてみたいと考え、今年1月に、財務省の担当官に来市いただき、これまでの経緯と宿舎管理について詳しく伺いました。「新たなつくばのグランドデザイン」と「宿舎跡地にかける地区計画」の新しい情報も話題にのぼり、今まで市から聞いていた細切れの話が一本につながり、分かりやすいお話でした。

今後は、時代の変化に合わせたまちづくり、廃止宿舎のこれから出てくる問題、などが部会の話題となりそうです。

市民ネットでは下記の通り、今までの情報を網羅したフォーラムを開催します。あなたも、部会やフォーラムで一緒に語りませんか？

### 公務員宿舎跡地をめぐる まちづくりフォーラム

5月8日(土) 14:00～16:00

国際会議場 303会議室

今回、市が提案している地区計画への意見交換などを行い、変わっていくつくばのまちづくりについて考えます。どなたでも参加できますので、ぜひお出かけ下さい。